

# Race Report

## Super GT 2015 Series

Round-1 / Okayama International Circuit

### FIA-GT3勢トップの3位表彰台を獲得

Audi Team Hitotsuyamaは4月4～5日に岡山県・岡山国際サーキットで開催されたSUPER GT 開幕戦「OKAYAMA GT300KM RACE」に参戦致しました。Audi R8 LMSを熟知したベルギー名門チーム「WRT (W-Racing Team)」とのコラボレーション、そしてヨコハマタイヤのパフォーマンスアップにより、公式テストでも好結果を残していた #21 Audi R8 LMS ultra。クラス10位からスタートした決勝レースでは、雨量が変化する荒れた展開の中、リチャード・ライアン、藤井誠暢が水を得た魚のごとくポジションアップ。FIA-GT3マシンの中では最上位となるGT300クラス3位を獲得し、幸先の良いシーズンスタートを切りました。



## 4月4日 公式練習

- 公式練習序盤はライアンがマシンチェックを担当。ウェットコンディションで走行を開始。
- 程なくして路面が乾き始めたこともあり、ライアンはマシンチェックを終えるとピットイン。無理をせずドライコンディションへ回復するまでピット内で待機。
- コンディション回復後、ライアンは1分28秒323のタイムを早々に記録し暫定クラストップに。ピットにマシンを戻し、セッション終盤を藤井に託した。
- 藤井はマシンとタイヤのマッチングが良いことを伝え、走行を続ける。中古タイヤでもライアンと同等の1分28秒355を記録し、ヨコハマタイヤのパフォーマンス、そして耐久性が大幅に向上していることを確認した。
- 終盤、ライバル勢がタイムを上げてきたこともあり、#21 Audi R8 LMS ultraは前半にライアンが記録したタイムのまま公式練習をクラス8位で終了。

## 4月4日 公式予選

- ライバル勢と比較し「予選モード」と言われる機能を持たないAudi R8 LMS ultraは、これまで予選で苦戦を強いられてきたが、シングルグリッド獲得を目標に、まずは藤井が公式予選Q1に挑んだ。
- 藤井は3週の計測ラップでチームのこれまでのベストタイムとなる1分27秒172を記録。クラス4位と好位置につけた。その後、4輪脱輪の判定が下り、ベストラップこそ抹消されてしまうものの、Q1突破には十分な2ndベスト1分27秒741のタイムが適応され、クラス10位でQ2進出が確定した。
- 公式予選Q2を担当するライアンは、「あまり無理をするつもりはないけれど、1分26秒台に入ればフロントローは狙える」と自信を見せた。
- しかし、ウォームアップ中にライバルに行く手を阻まれ、思うようにタイヤを温めることができなかったライアンは、1分27秒554のタイムが精一杯。
- クラス10位で公式予選Q2を終え、ライアンは悔しさを滲ませた。

P1 #10 GAINER TANAX GT-R アンドレ・クート / 千代勝正

P2 #11 GAINER TANAX SLS 平中克幸 / ビヨン・ビルドハイム

P3 #55 ARTA CR-Z GT 高木真一 / 小林崇志

**P10 #21 Audi R8 LMS ultra リチャード・ライアン / 藤井誠暢**

## 4月5日 決勝レース

- 決勝当日は朝からウェットコンディション。さらに雨量の変化が激しく、午後のSUPER GT決勝レースも難しいコンディションが予想された。
- #21 Audi R8 LMS ultraのスタート担当はライアン。
- SUPER GT決勝レース前には、路面コンディションこそウェットだが、ほぼ雨は上がっており、スタート後の天候変化を意識しながら、各チームタイヤ選択に悩まされることになった。
- 天候回復を予想し、ドライタイヤを選択するチームも見られたが、Audi Team Hitotsuyamaは路面が乾くことはないと判断。浅溝タイヤを装着し、決勝レースに挑んだ。
- オープニングラップ、#21 Audi R8 LMS ultraのライアンは慎重にドライブしつつも、しっかりとポジションアップ。まずは2台をオーバーテイクしクラス8位に。
- 2周目には#3 NISSAN GT-Rと#25 TOYOTA 86をパスしてクラス6位に。
- 5周目に#77 Ferrari 458もパスしクラス5位に浮上。さらに先を急ぐライアンは、前方を行く昨シーズンのチャンピオン#0 Mercedes SLSを秒単位で追い上げていく。
- 9周目、ライアンは#0 Mercedes SLSの背後に迫ると、難なくオーバーテイク。
- 今度は#10 NISSAN GT-Rに迫るライアン。ストレートではその差を広げられてしまうが、ブレーキング、そしてコーナリングで一気に差を縮める。12周目、コーナリングでGT-Rを交わしたライアンは遂にクラス3位まで浮上。
- クラス1～2位を行くJAF-GT規定のTOYOTA PRIUS、HONDA CR-Zには既に大差をつけられてしまっているが、ライアンは諦めることなく自らのペースを守り続け、15周以上を淡々とノーミスで走り続ける。
- その頃からクラス2位を行く#55 HONDA CR-Zのペースが落ち始め、再びライアンの猛追撃が始まる。
- 33周目、遂に#55 HONDA CR-Zをパス。クラス2位に浮上し、チーム内も歓声に沸いた。
- ライアンは45周目まで自身のスティントを伸ばし、ピットイン。藤井に後半を託す。
- レース終盤も同様の天候が続くと予想したチームは、浅溝タイヤを選択し藤井をコースに送り出す。
- 藤井がコースに戻った時点で、#55 HONDA CR-Zに逆転され、クラス3位に。#55 HONDA CR-Zは給油時間が極端に短いJAF-GT規定のマシンのため、ピット作業の間に逆転を許してしまった。
- クラス1～2位のJAF-GT勢は1周あたり1秒以上速いタイムで藤井との差を広げており、チームは自力でポジションアップは難しいと判断。藤井に3位をキープするよう伝える。
- それでも藤井は1分40～42秒台のハイペースをキープ。クラス4位以降のライバルは1分43～45秒台で走行しており、FIA-GT3マシンの中では#21 Audi R8 LMS ultra、そして藤井の速さが圧倒的であることを示す。
- 終盤雨脚が強くなる場面も見られたが、#21 Audi R8 LMS ultraは76周をトラブルなく走り切り、4位以降に1分以上の大差を付けて遂にフィニッシュ。開幕戦で表彰台を獲得し、幸先の良いシーズンスタートを切った。

P1 #31 TOYOTA PRIUS apr GT 嵯峨宏紀 / 中山雄一

P2 #55 ARTA CR-Z GT 高木真一 / 小林崇志

P3 #21 Audi R8 LMS ultra リチャード・ライアン / 藤井誠暢

### 一ツ山幹雄（チームオーナー）

「パーフェクトなレースでした。自分たちの持っている力を100%出し切れたと思います。上位2台がJAF-GT規定のマシンであること、FIA-GT3勢ではトップであること、そしてヨコハマタイヤユーザーの中でもトップであること。レース中も全くミスがなく、100点満点のレースでした。今シーズン、Audi R8 LMS ultraで継続参戦するために、オフシーズン間にさらなる体制強化を行い、多くの時間を費やし、投資も積極的に行ってきました。その結果が早くも開幕戦に表れて、本当に嬉しく思います。今年からチームに招聘したベルギーWRT(W-Racing Team)のエンジニアと、日本人スタッフとのコラボレーションの成果であると確信しています。シリーズチャンピオンを目標に、さらに体制を強化して第2戦を迎えたいですね。」



第2戦は5月2～3日に静岡県・富士スピードウェイにて開催されます。  
引き続き、皆様からの沢山のご支援・ご声援をお待ちしております。



Official Facebook page of Audi Team Hitotsuyama.

<https://www.facebook.com/hitotsuyamaracing>